

評価シート集計表

基本方針1		総合評価
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組みを進めます		B
委員	評価	評価理由
委員A	B	コロナ禍で対面での活動が難しい中、SNS等の取組みを強化していることは評価できる。
委員B	A	情報交換、情報提供などを今以上に進めながら、相互に理解を深めていくことを期待する。
委員C	B	市民との連携や、市民への支援に関して、さまざまな取組みを行っており、目標を達成している点が評価できる。一方で、事業者や地域との連携や支援は、今後工夫を重ねてさらなる取組みを行う必要があると思われる。
委員D	A	感染症関連の課題もあり、各種協働の取組みの実施回数について、一部目標を下回ってはいるものの、質、量ともに、予定された活動を実施されており、成果が出ていると考えられる。
委員E	B	バイオエネルギーセンターに対する市民へのアピールと啓発の発信が少なく感じた。
委員F	B	コロナ禍で活動が制限される中、概ね良好に連携、協働に取り組めたと思います。
委員G	B	出前講座・イベント・情報発信（ネット・YouTubeなど）様々な形で市民とつながろうと取組みをしている。 てまどりキャンペーンはとても良い企画。 小売店の悩みをサポートしてくれる企画で企業側が助かる。 市民も少し考えて頂くことで食品ロスにかかわっている意識を持つことができる。
委員H	B	3R学習の充実、担い手づくりに向けた取組の推進等について実施回数等について目標値に達成していて、達していないものについてはコロナの影響によるものなので。
委員I	B	一部未達の項目がある。
委員J	B	年々分別するのが難しいものが増えていくのでその時々にあった講座が必要だと思います。
委員K	C	ほとんどの市民は、環境保護の重要性を観念的には理解していても、自ら主体的に行動するほどの意識はないと思います。 アクションプランにおける実施計画には、より多くの一般市民を参加させるための取組みが必要かと思えます。
委員L	B	市の評価の通り、全体として目標数値とおりに実施がなされているから。しかし、事業者との協働による取組みの推進、地域が行う取組の支援といった他の団体と協力することに課題があるため、積極的にその事業を展開してもらいたい。
委員M	B	様々な活動は評価できるが、ごみの減量は分別がキーポイントである。しっかり分別することにより、大幅減量への道筋ができる。そのためには、更なる分別の詳細周知及び啓蒙するアクションの増が必要である。

評価シート集計表

基本方針2		総合評価
家庭系ごみの減量を進めます		B
委員	評価	評価理由
委員A	B	個別の施策については、多くの施策が目標を達成している点は評価できるが、ごみの量から見ると、生ごみについては大きく増加してしまっており、施策の効果が十分に確認できない。
委員B	B	頻度を上げた情報提供に期待。
委員C	B	プラスチックごみの発生抑制や資源化については、順調にすすんでいると評価できる。一方で感染症の影響もあり仕方がない側面があるが、担い手づくり、地域の団体や事業者への支援はなかなかスムーズにいかなかったように思われる。2022年度は、社会状況も変化すると考えられるので、前年度、目標が達成できなかった施策について、力を入れて対応する必要があるのではないかと。
委員D	A	2-3-1以外の項目で、目標を達成されており、丁寧な啓発活動、支援が行われた。
委員E	A	家庭から出るごみは、消費行動の変化により、近くの商店での買い物が少なくなり商店数の減少となっている、行動分析等の取入れ。
委員F	B	コロナ禍で活動が制限される中、概ね良好に施策を推進できたと思います。
委員G	C	ゴミ削減に対して行っていることは必要なことで、市民の行動が変化すればごみ減量につながると思います。ただ行った、知ってもらいましたなど何がどれくらい変わった、変化したが見えてこないです。
委員H	B	各目標値は達成しており、達成していないものはコロナの影響によるものなので。
委員I	A	概ね目標を達成している。
委員J	B	子どもを対象とした講座を開催することで、ごみの分別を身近に感じてもらえます。
委員K	B	一般廃棄物の削減1.6% (1,482/92,827) の減量は評価できます。しかし、環境保護の重要性が叫ばれている今、より大きな目標に向かうべきではないでしょうか。
委員L	B	全体としては目標通りに進められているから。ただし、目標値が設定され、それを規定回数行ったから評価が○というのは単純すぎるため、計画内容の効果についても統計すべきだと考える。
委員M	B	第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画 アクションプラン (2021年3月策定) の進捗状況、2019年からものを見たが、2020年/2021年の推移はリモートワークや授業により、ごみの量は大幅に増えているかと予測したが、抑えられていたのは評価できる。

評価シート集計表

基本方針3		総合評価
事業系ごみの減量を進めます		B
委員	評価	評価理由
委員A	B	コロナ禍で対面での活動が難しかったこともあり、重点施策が目標通り実施できなかった点は、今後の改善が求められる。
委員B	A	事業者としての市の取組みをもっとアピールしてほしい。
委員C	C	他の基本方針でも類似の傾向がみられるが、対事業所の施策の目標達成度が低いように見える。感染症問題で仕方がない部分もあるかもしれないが、社会状況は劇的には変化しないと考えられるので、その中で、どのように事業所にアプローチをしていけばよいか、を示してほしい。
委員D	A	3-1-2など優良事例の表彰は、大変良い取り組みで実績をあげられている。3-1-2の公共施設の事業系ごみ削減については、ギリギリ目標値を下回ったという状況となっている。全体としては、目標に沿って各施策は進んでいると評価した。
委員E	B	事業者への周知、啓発を中小の事業所には少なく感じた。
委員F	B	コロナ禍で活動が制限される中、概ね良好に事業系ごみの減量に取り組めたと思います。
委員G	C	目標未達成や目標自体が低い思う。
委員H	B	各目標値は達成しており、達成していないものはコロナの影響によるものなので。
委員I	A	削減率はおおむね目標を達成している。
委員J	B	紙類の減量、資源化と研修。
委員K	C	事業系ごみは、基準年からは減少していますが、2020年からは増加していますし、2025年の目標値はさらに増加しています。
委員L	C	新型コロナウイルスを理由に事業者に対する指導回数等が減少していることが説明されているが、それを前提とした計画や施策を行うべきだと考えたから。
委員M	C	ペーパーレス、デジタル化の遅れ。

評価シート集計表

基本方針4		総合評価
環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます		B
委員	評価	評価理由
委員A	B	収集体制の見直しや資源化品目の拡大について、検討に着手されたことは評価できる。
委員B	B	バイオエネルギーセンターを安定的に稼働させていくことは重要だが、かねてからの課題であるプラスチックの資源化施設についてはプラスチック新法にどのように対応していくかの検討と合わせて設備整備をおこなっていただきたい。
委員C	A	新しいごみ焼却施設等の整備を除いて、全体的に計画通りに進んでいる点が評価できる。
委員D	A	新施設導入により、全体的に改善が図られている。
委員E	B	南地区以外のプラスチック資源化施設の整備が遅れている。 生ごみの発電等バイオマス化による有効活用。
委員F	A	町田市バイオエネルギーセンターにおける先進的な取り組みをはじめ、資源化施設の整備、収集体制の見直し、ごみの資源化等を大幅に推進できたと思います。町田市バイオエネルギーセンターの機能、存在を市民に周知することで、ごみ減量・資源化に対する気運の醸成が期待されます。
委員G	B	資料を読む限りよく取り組んでいると思います。
委員H	B	各目標値を達成している為。
委員I	A	新しいバイオエネルギーセンターが順調に稼働している。
委員J	A	生ごみのバイオガス化施設が稼働開始したこと。
委員K	B	市民として、定期的かつ確実なごみ収集には感謝しています。しかし、ごみ処理や資源化の環境保護効果が検証されていかなるかが不明です。LCA的に環境保護効果がないのであれば、流行や国の指導のよらず、独自の方策を採用すべきだと思います。
委員L	A	全体としては目標通りに進められているから。ただし、地区ごとに分別基準が異なるという問題をどのように解決するかを明示すべきだと感じた。
委員M	B	エコロジカルな設備を持つバイオエネルギーセンターの開所及び運用開始は大変評価できる。ただし運用早々の火災事故は、2か所のコントロールセンターでの監視システムで早期発見、早期消火はできなかったのか疑問が残った。

評価シート集計表

基本方針5		総合評価
社会的課題への対応を強化します		B
委員	評価	評価理由
委員A	B	コロナ禍の影響が出た施策以外は、概ね計画通り検討作業等に取り組みっていると評価できる。
委員B	B	災害、高齢化、不法投棄などの社会的な課題について他部署や市民、事業者、関連団体などとの情報交換をより積極的に行うことに期待する。
委員C	B	災害時の対応や今後の高齢化社会への対応など、難しい社会問題にどのように向き合えばよいかを検討し、一定の取り組みを行っている点が評価できる。とはいえ、これからさらに問題が深刻化していくことも考えられるので、常に情報を収集しながら検討し、実践し、改良し、ということを行うことが重要ではないかと考える。
委員D	A	目標とする内容は概ね達成され、2022年度の計画も適切である。災害廃棄物計画、高齢化対応、不法投棄等への対応としては、問題なく実施、計画されている。
委員E	A	災害対策、高齢者対策等進んでいた。
委員F	B	5-3-2不法投棄防止対策の推進の指標①「不法投棄防止・抑止活動の実施回数」および5-3-4持ち去り行為防止対策の推進の指標①「持ち去り防止活動の実施回数」は目標を達成できませんでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえれば、全体として取り組みが進んでいると評価できます。
委員G	C	5-1(1~3)に関して市としては情報を発信しているが市民が把握しているか疑問。 5-2-1 1年で運搬業者しか情報を収集していない。
委員H	C	未達成の項目が2項目ある為。
委員I	B	もっとも重要な不用品の違法回収防止や不法投棄防止策をもっと積極的な対策を作るべき。
委員J	A	災害時の災害廃棄物処理計画に関するマニュアル作成、合同訓練。
委員K	B	この課題は評価困難です。
委員L	B	災害時のごみ処分に対する教育・訓練はよくできていたから。ただし、不法投棄や持ち去り行為防止対策の推進といった違法行為に対する施策が不十分であると感じた。
委員M	B	大規模災害発生時の対応・対策には評価すべきものがあるが、災害は今起きてもおかしくない状況下、市民への更なる周知が必要。不法投棄及び持ち去りの両現場に、実際に遭遇し写真撮影し通報したが、警察官が現行犯以外に罰することができないと知り驚いた。